

臨床試験提示

B班

中西賢一 久田知可 小泉圭 佐藤雅子

【Clinical question】

閉経前ホルモン受容体陽性乳癌に対する術後内分泌療法として、10年間のタモキシフェン投与に併用するLH-RHアゴニストの至適投与期間はどれくらいか？

【仮説】

化学療法未実施の閉経前ホルモン受容体陽性乳癌に対してLH-RHアゴニストの投与期間を延長することで晚期再発を抑制できる

【背景】

化学療法未実施の閉経前ホルモン受容体陽性乳癌に対して日本ではタモキシフェン投与に併用してLH-RHアゴニストが投与されている。

(卵巣機能抑制追加の有効性を検討する大規模臨床試験は現在進行中である)

近年タモキシフェン10年投与が5年投与に対して晩期再発を抑制することで10年後以降の再発, 死亡のリスクを有意に減少させた。

ただし併用するLH-RHアゴニストの至適投与期間に定まったものはない。

【対象】

化学療法未実施の閉経前ホルモン受容体陽性乳癌患者

【対象に対する現時点での標準治療】

タモキシフェン10年投与＋LH-RHアゴニスト2年投与

【試験治療】

タモキシフェン10年投与＋LH-RHアゴニスト10年投与

